

オランダ長期研修報告



トマト栽培試験圃場にて、
関係者が集まり熱心に協議中



生育調査



果実肥大調査



生育調査簿

オランダにおいては施設果菜類の生産性が高く、トマトでは日本の3倍近くの収量が得られています。しかし、最近では日本と同様に燃料費の高騰や、販売単価の下落により経営は厳しく、更なるエネルギーの利用効率の向上や、収量の向上が大きな課題となっています。

DEMOKWEKERIJ WESTLAND社では、トマトの収量向上のための新しい栽培システムの開発など、より実用性・普及性の高い試験が行われていました。そこでは作物の生育状況を把握するために、生育や収量などについて詳しい調査が行われていて、その結果にもとづいた環境制御、栽培管理が行われていました。今回の研修はその手法の習得を目的としました。

オランダでは生産者も週に1回程度の生育調査や収量調査を行い、生育の変化や推移を数値で把握しています。特に長い期間にわたって収穫を続けるトマトやパプリカなどの果菜類は、生育ステージごとに栄養

成長と生殖成長の理想的なバランスを維持することが重要です。様々な調査結果や天気予報などから予測される状況を蓄積されたデータや経験により判断し、目標とする生育に近付けるよう環境制御をしています。

DEMOKWEKERIJ WESTLAND社の試験圃場では週に1回、生産者や研究者、資材メーカーなどの関係者が集まり、生育状況や調査結果などについて熱心に協議していました。同様に一般の生産者も栽培アドバイザーや他の生産者と互いにデータを共有して、栽培管理や資材の改善策についてアイデアを出し合い、常に良いと思われる栽培管理を追求し続けていました。

ハウス内環境と生育・収量を数値で把握し、それらを関連付けて分析すること、ライバルであり仲間である他の生産者達と多くの情報を共有することで、環境制御をはじめとする栽培技術が向上し続けているのだと感じました。

(施設野菜担当 山田美保江 088-863-4918)